高校における作文の指導

＝自己表現の場を作る＝

錦織恵子

一　はじめに

大学入試に小論文があるから、あるいは就職試験に作文があるからと、三年になると個人的に指導を求めてやって来る生徒が多い。しかし、実際に書かせてみると、原稿用紙の使い方を始めとして、誤字、脱字、文のねじれ、文末の不統一、段落構成、一人よがりの論理等、さまざまな問題をいっぱい抱えていて、今まで何を勉強して来たのかと思うことがしばしばある。また、毎年恒例の夏休みの宿題に読書感想文を書かせ、提出させたものをコンクール用に審査はしている。しかし、審査にもれた大多数の生徒の作品の添削指導ができずに、そのままになる年のなんと多いことか。次の年に同じように感想文を課すと、「またか」という生徒の声が聞こえて来る。

生徒の作文力を向上させるにはどうしたらよいか。書く気を起こさせるためにはどうしたらよいか。マンツーマンで添削指導ができればそれにこしたことはない。しかし、さまざまな事情から、書かせた作文を短時間に添削指導することは非常に困難である。また、生徒は書くことが全くないのではない。表面的には「いやだ」と言いながらも、自己表現の欲求は強く持っている。そうした生徒の気持ちは大切に育ててやりたい。一方的な授業の中では、生徒は自分の気持ちを表現する力を十分発揮できないでいるのだ。書きっ放しの作文指導からは、生徒のやる気も文章力の向上も望めない。そこで私は、作文指導に当たって、できるだけ生徒に書かざるを得ない状況を作っていくこと、そして、書かれた作品には必ず批評を加えること、またそれは、教師側のものに限らず、生徒同士の力も大いに利用していくこと等を考えて、いろいろ実践を試みた。以下、この数年間の実践をまとめてみた。

二　実践例

(A)　スピーチ

国語表現の授業を担当した年は必ず実施している。

(1)授業のねらい

①社会や人生、身の回りの問題についての認識を深める。

②実際にスピーチを行い、話す態度や聞く態度を身につける。

③相互批評を行い、仲間づくりに生かす。

(2)授業の展開

①教科書のスピーチ原稿の例を読んで、自己の内面を洞察するきっかけを作る。

②スピーチを全員にしてもらう予告をした上で、話すための準備、話す態度、聞く態度について事前に指導する。

③スピーチの順番を決定し、およその発表日時を予告しておき、構成を各自に考えさせ、構成表のみ提出させる。

④スピーチを開始する。三〜五分のスピーチで一時間六人程度。スピーチに要した時間はストップウォッチで測り、その都度何分要したか知らせる。聞き手には評価表を渡して聞きながらメモを取らせ、授業の終わりのたびに回収する。

⑤回収した評価表を個人個人にまとめ、批評された本人に手渡す。

⑥手渡された友達からの評価表を見ながら、「スピーチをやって」「人のスピーチを聞いて」のアンケートに各自記入する。

⑦アンケートの反省をもとにして、訂正も加えながらスピーチの原稿を清書し、提出させる。

資料a　スピーチ構成表

〈スピーチ〉―心に思うこと―

（三〜五分間）

氏名　題番

題目

主題

構想

発表後の自己反省

評価表				
	題目	生徒会活動の自慢したこと		
	所要時間	2分	55秒	
	内容	(A)	B	C
	音声	(A)	B	C
	態度	(A)	B	C

（黒紺美貴）より（島津康代）さんへ
まず、小学校から、中学、高校と、生徒会をやってたなんて本当にすごいなあと思いました。やっぱりけんなの前でしゃべることには慣れているって感じでしたけど、もっと自分を言えば、生徒会活動を通しての、出来事を具体的に書けばもっと不安さ等が伝わったかなと思います。でも、発表としてはAです。

評価表				
	題目	アルバイト		
	所要時間	1分	27秒	
	内容	(A)	B	C
	音声	A	(B)	C
	態度	A	(B)	C

（黒紺美貴）より（藤川英司）さんへ
内容がおもしろいんだから、もっとはっきり発表したら、やなりすばらしいスピーチになると思いました…
アルバイトをしたことがない人にとっては、とても興味深いスピーチです。特に「ラジオ体操が嫌だった」というところはおもしろいと思いました。目に浮かぶようで…。

スピーチを終えて

3年（4）組（24）番（　）氏名（黒紺美貴）

（1）題名（出会い）

（2）テーマ（　）

（3）スピーチの長さ（4分39秒）

（4）準備　ア　時間（約7時間）

イ　どんなことを考えたか。

自分の経験した事を具体的に話そうと思った。そのほうがみんなを解きこむ事に「ひきつける」スピーチができると思ったから。

（5）当日の心境

前日から緊張していて、当日も1・2時間目は自分がムカムカした。早く済んでほしいとおもわず、でも心臓もどきどきしていた。

（6）終わってからの感想

もっと原稿を初めとリラックスできたら良かったのにと思う。おもしろいの連続で笑いがたえなかったけど、ちょっぱ厳しいものもあって、いい刺激になるのでスリルがあって良かった。とにかく緊張して良かったよ！

（7）友達の批評

	（人数）	指摘されたこと
内容	A（28） B（　） C（　）	文章の組み立てがしっかりしていた。 具体的に話していたのが良かった。
音声	A（28） B（　） C（　）	声が通っていた
態度	A（26） B（2） C（　）	堂々としていた。 落ちついていた。

人のスピーチを聞いて

（1）一番すぐれていたものについて

ア）話し方のすぐれていたもの

氏名（鉄橋さん．　）

どういう点　CMのことを力強く話っていて自身もスピーチを楽しんでいた点…（そういうふうに見えました）

氏名（中村秀夏子さん）

どういう点　初めの頃みんなの方を向いて話しかけるようにしていたのが、とても印象的でした。

イ）内容のすぐれていたもの　印象に残ったもの

氏名（新川君　）

どういう点　みんなが出来そうもないことをやっている。話のスケールの大きさ．．

氏名（船越君．　）

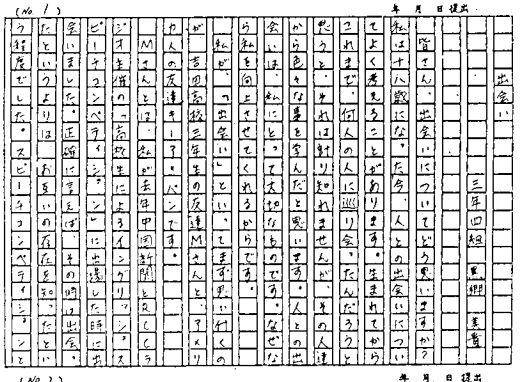
どういう点　話の転回がうまかった点。確か「～だった」とか「～だ」という言い方だったと思ったけど その現知感を感じさせないスピーチだった点。

（2）参考になったこと（印象に残ったこと）

スピーチする人がリラックスして話していると聞いている方も楽しく聞けるんだなあと思いました。結構「です」「ます」表現や「だ」「思う」がごちゃごちゃになっている人が多いなあと思いました。

スピーチの授業を通しての感想を書いてください。

今までにない授業で刺激があって楽しかったです。みんなの知らざる一面を見たわけで興味深いスピーチばかりでした。みんなこんなことを考えてるんだなあということを知ることができて良かったです。終わってみると良かったなんて書けるけど もう一度やれと言われても出来ないと思います。久しぶりに人前で話す貴重な体験でした。



(No. 1)　年　月　日提出

出会い

三年四組　東郷　美香

私は十八歳になった今、人との出会いについて改めて考えることがあります。生まれてからこれまで、何人の人に巡り会ったろうと思います。人との出会いは、私にとって大切なものです。なぜなら私を向上させてくれるからです。

私が一番印象深い出会いとしてまず思い付くのは、Mさんとは、私が去年中国新聞と共催したジュニアピアノコンペティションで出逢った時に出会ったMさんとアメリカ人の友達キーアンです。

Mさんとは、私が去年中国新聞と共催したジュニアピアノコンペティションで出逢った時に出会ったMさんとアメリカ人の友達キーアンです。

(No. 2)　年　月　日提出

本選への出場権を手にすることができました。二年ぶりの優勝でした。

一次のテーマで審査に合格した二名が二次のテーマ上で審査に合格した三名が三次の本選へのテーマ上には、一貫して自分の考えを自信をもって発表することが大切だと思います。

(No. 3)　年　月　日提出

人との出会いは、一度きりの一期一会だと思います。人との出会いは、一度きりの一期一会だと思います。

(No. 4)　年　月　日提出

私は、アメリカ留学がしたいと思っていました。つまり、英語が副専攻なのです。私もそれを目あての応募をしたと言っても過言ではありません。一次審査合格の連絡を受けた時は、もう目の前に留学がしたいと思っていました。

私は、出会いは人の人生を変えてしまうかもしれないと思います。

資料f　スピーチの授業を通しての感想

スピーチの授業を通しての感想を書いてください。

内容がしっかりしていて、良かった人がいました。スピードや文章形式が一番頭に残っています。

私は、人前でうまくしゃべることはできなかったけれど、少しずつ、まんぞくできたのでよかったです。

一番うれしかったのは、発表会の結果です。楽しいとやうれしかったような内容がほとんどでした。感想文は、おもしろいぱい書きました。

スピーチの授業を通しての感想を書いてください。

[illegible]

スピーチの授業を通しての感想を書いてください。

[illegible]

(B)　自分史、卒業文集

三年で国語表現や現代文を担当した際に実施。最初は「自分史」のみにしていたが、内容が限られることから、現在は「卒業文集」として扱っている。

(1)授業のねらい

①一年間の授業の総括として、卒業文集を作成する。

②社会や人生、身の回りの問題について認識を深め、自分の言葉で表現する。

③作品を書き上げる喜びを知る。

④相互に評価をし、批評の大切さを知る。

(2)授業の展開

①「卒業文集について」のプリントと構成表を配り、心構えをさせる。

(ア)題は各自考えて作る。

・教科書で学習したことをヒントにして書く。

・今までに提出した作品をふくらませて書く。

・自分史を書く。

・創作作品を書く。

(イ)形式　論説　随想　小説　戯曲　日記　手紙等

(ウ)字数　四百字詰原稿用紙　八枚以上

②先輩の書いた「卒業文集」を読んで参考にしながら構想を練り、構成表を提出する。

③下書き原稿は随時提出とし、提出されたものから添削して返却する。

④清書原稿は提出されたものから順次印刷する。

⑤印刷した原稿を各自ファイルに綴じていく。

⑥ファイルした原稿を読んで、評価表に書き込みをする。

⑦回収した評価表を個人個人にまとめ、批評された本人に手渡す。

⑧手渡された友達からの評価表を見ながら、「卒業文集」のアンケートに記入する。

資料a　教育文書様式案

教育文書様式案

1 題名

2 発信者　（　）局（　）課（　）

3 種別

4 件名（簡潔で具体的に）

5 内容の要点

資料b　記入上の注意

「卒業文集」 (2)組(39)番 (仁後由紀美)

1 どの作品が特にすぐれていると思ったか

氏名	形式	内容面	表現面
川崎さ	詩	父親の行動を客観と描いている。	特に好ましいが父親への敬意がよく伝わる
木戸さん	〃	転校と人生の関わりを難しく考えている	説得力がある。心に残る。
高千くん	自分史	自分史といえ決して人をタイクツさせない。	字に大事が夢へと向かっている。

2 人の作品を読んで、もっと深く知りたい点はなかったか

氏名	もっと知りたい点

3 友人からどんな感想や意見をもらったか(5項目ぐらいは必ず書くこと)

詩が上手いと言ってもらった。(上手くないのに) みんな ありがとう。

4 作品を書いて

(1) 書きあげるのに要した時間 (およそ 何1日も…… 100!! 時間ぐらい)

(2) 参考にしたもの、影響を受けたもの

(父) 日記、雑記帳、

(母) 毎日の生活、友達の考え、経験

(3) 作品のねらい(どういうことを書き表したかったか)

1番は運命 今、私が強く大切だということ。

(4) 自分が書き上げた後に思ったこと

生きるぞ!!

(5) 「卒業文集」を書くことは自分にとってどういう意義があったか

今までの生活への反省とはじめての利用。
人間として今の思いに結論をつけること。
18年間への反省と、これからへの決意。

5 友人の作品を読んで

(1) 友人の作品を読んで感じたこと(全体的に)

自分で卒業にヘタクソが多いけど 決してあうえかたできないということ。

(2) 「卒業文集」の授業全体を通しての感想

忙しい時期に、こんなことをしなくてもと思っていたが、そんな時だからこそ
文章上手い悪いがあるのだと思えた。この学習が教わってからというもの(はじまったから…)
何故か、勉強をするようになった。考えることが今までと変わってきている。生き方の信条と生まれて
初めて何にもうなる気になっている(だけもしれない。きっと) これも先生のおかげというものです。
一年間お世話になりました。これからもよろしくお願い致します

資料d　生徒作品

思い

三年　二組　三十二番
茶広　美佳子

言葉は、私に多くの影響を与えてくれます。言葉によって、時には苦しんだり、傷ついたり、怒ったり、喜んだり、笑ったり……さまざまな思いの中で、なくてはならないもの。言葉、すてきな人間の生物だと思います。しかし、世の中で、どれだけの人が、言葉を用いて、自分を表現し、理解してくれる人がいるでしょうか。又言葉にもって心が豊かになる人がいるでしょうか。私には、言葉とはいうまでもなく生物であり、知識だけでなく、自分を表現することができないでいます。つまり、表現方法にとまどっているのです。はじめに述べたように、言葉は、本に多くの影響を与えてくれるのです。その影響といないのに、この部だけは、不思議と覚えているのです。校長先生のお話を思い出すと、懐かしく、楽天的、いろいろ思い出のあるグランドが目に浮かんできます。少し変わっている学校で、グランドが、上と下に分かれていて、ユニークな広場もありました。朝のなわとび運動、運動会、何度も何度も走り回った、あのグランド。今はどうなっているのでしょうか。よく遊んだアスレチックは、あの小学校、あの校長先生……私があの小学校を思い出すときには、ひとまわりも、ふたまわりも、自分の心が豊かになったと、言い切れます。そしてあのグランドを、走り回った同級生と、あの頃と同じように、なにもかも忘れて、走ることができる自分になれて。

一生の中に、色の数だけ人がいる。私たちの知らない人は、たくさんいろ。知らない人の方が多いぐらい。自分の人生を楽しいものにするには、自分が積極的に、たくさんの人と出会い、吸収し合うことだと思う。私がこういう考え方になったのは、中学生二年位の頃からなの。

今でもその時の場面は、覚えています。まるで小説の一節みたいに、色がたくさんでていた夜空で、星を見ながら、話してくれました。私にこう話してくれた人は、私が中学生一年から二年の間、習っていたピアノの先生です。とても、すてきなお姉さんみたいな存在です。私に大きな影響を与えてくれた人の一人です。

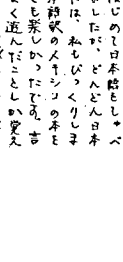
北アメリカの南部に共和国があります。そうです、メキシコ。といったら、誰でも名前は知っていると思うでしょう。もちろん私は、メキシコには、行ったこともないし、どんな国で、どんな人々が住んでいるかもあまり、知りません。でも、私は、メキシコ、という言葉を聞くと、なぜか、懐かしさを感じてしまうのです。

私が、今まで出会うことができた先生は、まだまだ、たくさんおられます。本当、やさしさを教えてくれた先生、一生懸命、なんでも立ち向かうことを教えてくれた先生、時には厳しさも必要なのだということを教えてくれた先生……私にとってすてきな人とは、どんな人ですか。と聞かれたら、いつも輝いている人、そして、人にいい面で影響を与えることができる人、人に何かを教えることのできる人、ではないでしょうか。と答えるでしょう。私は、今までに多くの友達と、そして多くの先生と出会ってきました。今の私を作りだす過程として、なくてはならない存在となっています。今からもきっとそうでしょう。将来については、迷路も、私の出会った人の影響がないとは、いえないでしょう。人の影響がないとしたら、それはありません。私が人から影響されに行く。私が人になりたいと思っています。

足しに生活をしてきたのに、日本のことを勉強するために、ヘルマン君のお父さんは、一生懸命がんばっていました。そして二人家族が一つになって、ここ私は、味とヘルマン君とサウル君とよく一緒に遊びました。ヘルマン君たちは、日本に来て、はじめて日本語をしゃべったのだと言っていましたが、どんどん日本語を覚えていったのには、私もびっくりしました。私と弟が、日本語版のメキシコの本を見手に話すのは、とても楽しかったです。言葉は、違っても、仲よく遊んだことは、忘れていません。私が山口に引っ越して、しばらくたってから、ときどき、私の家へ、ヘルマン君たちがどうしているかねーといった経験になると、その頃の話を懐しくします。今は、どうしているか、全然わからないけれど、ビートルズの大好きだったヘルマン君、サウル君、もう子いぶん大きくなっただろうなあ。日本語は、もう忘れてしまっているだろうなあ。

私が、今一番楽しみにしている事の一つに、人との再会があります。私は多くの人と出会い、別れをしてきました。そして別れだけでは、寂しすぎると思います。よく出会いがあってこそ、別れはつきものだと言います。ほう、たら、別れも、別れがあって再会があるのだと思います。

私の人生の中で、大きな岐路に立ち、一つの道を選んだ今、その道への再出発、別れた人が、今どんな道を歩いているのか、知るために、心のゆとりが持てるようになったこの春には、再会を実現しようとしている部分。



(C) 詩文集「私の好きな詩」

現代文の授業で詩を扱った後に実施した。

(1)授業のねらい

①生徒の詩に対する拒否反応を取り除き、詩を読む楽しさを体験させる。

②自発的に詩を読む態度を養う。

③詩との出会いによって、照らし出された自分自身の思いを小文に表現させる。

④完成した詩文集を読むことで、より多くの詩に接するとともに、友達の思いにも触れさせる。

(2)授業の展開

①教科書による詩の読解をする。

②詩文集「私の好きな詩」の作成を予告する。

③参考プリントを配布する。

④図書館で作業させる。(詩を選ぶ、小文を書く等)

⑤原稿を印刷し、製本する。

資料a　詩文集参考プリント

それだけのことが

それだけのことが
どうしていえなかったのか
こころのままはいいにくく
まして
こころにもないことはなおまらいいにくい
うそでもまことでもよかった
あなたがすきだとかきらいだとか
ひとこといえばいったように
ぼくらはあんどするはずだった
それだけのことが
どうしてできなかったのか
やってよいことはやりにくく
まして
やってわるいことはなおさらやりにくい
うそでもまことでもよかった
だきよせるとかつきはなすとか
ちょっとうこけばうごいたほうに
うんめいはころげおちるはずだった

それだけのことが
どうしてわからなかったのか
じぶんのこころをていかことはひすかしく
まして
ひとのこころをつかむことはなおまらむすかしい

……

――M子よ
あれからいちねんたったいま
ぼくにわかったのだ　あのとき
おまえがかんがえていたことも　ぼくが
かんがえていたこともおなじだったっていうことを

（一九七四年一月一日　ささやき　一九歳）

（埋葬の詩）　[illegible]だったとも、[illegible]
[illegible]て、[illegible]の二年に[illegible]ことがあった。
わたしはひとりしょうり[illegible]山にのぼってみた。[illegible]
[illegible]というのは、子どものころよく遊びまわった[illegible]
[illegible]の[illegible]の墓地でもあった。
もっとも[illegible]の墓地は[illegible]山にもあります。
[illegible]太[illegible]山の[illegible]がやまれた、この[illegible]も、こ
れで[illegible]きのかと、という思いがわいてきた。二十一
歳のわたしにとっては、やはり[illegible]の列車としてな
ぜのりけばなるものがあるものかもしれかった。
[illegible]もあり、旧[illegible]に出たとも、わたしはO
子に[illegible]。[illegible]に、旧がなんとしいとすやすしげ
なきて、[illegible]のこう、[illegible]のすのくすきがすた、わ
たしもしかわいい一人だったが、[illegible]通電ごと
もなく、少年の日を終わったのだった。
すれちがうとき、[illegible]の白い顔をわずかに[illegible]
せた、わたしとぬってのの[illegible]だったのや、それとも
まったく[illegible]のないようだったのかわからなかっ
た、[illegible]なら、O子、わたしはつよやいた。
[illegible]一人だって、わたしは[illegible]の[illegible]かと、[illegible]
たO子[illegible]だった、[illegible]が[illegible]ていた、こ
んどこそほんとうの、[illegible]だった、声になら
ぬまま[illegible]しかいまず、わたしの[illegible]は、ひとつ
[illegible]ていったのだ。

日本の詩 ■2

あなたへ

遠藤聖吉　作曲

（小林[illegible]）

資料b　詩文集の一部

『言葉は心を伝えない』

銀色夏生

言葉は心を伝えない。
言葉が心を伝えないことは
悲しいことではない。
言葉が心を伝えてしまったら
困ることがたくさんでてくる。
伝えられなかった心の中にこそ
最も大切な尊い何かが
あるのではないか。
それがお互いを守るのではないか。

トマト と メロン　　相田みつを

トマトにねえ
いくら肥料やったってさ
メロンにはならねえんだなあ

トマトとね
メロンをね
いくら比べたって
しょうがねんだなあ

トマトより
メロンのほうが高級だ
なんて思っているのは
人間だけだね
それもね
欲のふかい人間だけだな

トマトもね
メロンもね
当事者同士は
比べも競争もしてねんだな
トマトはトマトのいのちを
精一杯生きているだけ
メロンはメロンのいのちを
いのちいっぱいに
生きているだけ

トマトもメロンも
それぞれに　自分のいのちを
百点満点に生きているんだよ

トマトとメロンをね
二つ並べて比べたり
競争させたりしているのは

三年二組　三十二番　花山智子

自分が伝えたいと思った言葉でも相手を喜ばせる言葉、傷つけてしまう言葉があります。それを自分できちんと判断して相手に伝えれば、トラブルというものは起こらないと思います。

言葉には命があります。そのことを忘れないで、これから先、いろんな人との出会いを大切にしていきたいです。

『あの空は夏の中』
銀色夏生
角川文庫

そろばん片手の人間だけ
当事者にしてみれば
いいめいわくのこと

「メロンになれ　メロンになれ
カッコいいメロンになれ!!
金のいっぱいできるメロンになれ!!」
と
尻ひっぱたかれて
ノイローゼになったり
やけのやんぱちで
暴れたりしているトマトが
いっぱいいるんじゃないかなあ

三年一組三十九番　猶崎侯子

今のこの世の中、例えば、トマトとして生まれてきたのに、トマトとして生きることが許されない。「それが世間というものだ」と言ってしまえばそれまでだけど、私は、そんなのはいやだ。

どんなに望んでも、どんなに頑張っても、私は私でしかない。でも、それでいいと思う。ただ、工場で大量生産されて箱詰めにしただけの人間には、なりたくないなあ。

「にんげんだもの」
相田みつを
文化出版局

白い道

長い間迷っていて
やっと正しい道に戻ったとき
道はなにも言わない
ほめもせず　責めもせず
重荷にならないように
「帰ったのかい」の一言もない
ただ
これから歩く道と
ひとすじ　白くしめすだけ
歩いてきた道より
これから歩く道のほうが
いつでも大事なのだから

「道」
星野　富弘　（サンパウロ出版）

教科担任　錦織恵子

高校三年間の授業の中で、幾編もの詩を扱って来ましたが、それらのすべてが皆さんの心の中にしっくり溶け込んだとは思いません。皆さんには皆さんの感受性があり、教科書には載っていない詩の方がはるかに多く存在しているのですから。

詩はやはり、作者の心情と読者の心情とがピッタリ一致した時が一番深く心にしみ込んで来ます。そんな詩に巡り合えるといいのですが、巡り合うためにはこちらも常に「読む」という作業をして行かなくてはなりません。自分の共感できるもの――それはきっとどこかにあるはずです。詩に限ったものでもありません。共感できる考え方、共感できる生き方、共感できる仲間……それらを探しながら歩いて行くのが人生ではないでしょうか。

今後の皆さんのご健闘をお祈りします。

（一九九一、一、一〇）

(D)

学級通信「水ぐるま」

一九九〇年度、普通科一年で実施。初めて高校で出会った生徒達を早くクラスに打ち解けさせたい、また、保護者にも学校での生徒の姿を知らせたい、ということから学級通信を始めた。行事、LHRで話し合ったことなど、折あるごとに生徒に感想や意見を書かせるうちに、初めは抵抗感のあった生徒も次第に慣れて来て、書くことが気にならなくなり、自分の書いたものが載ればむしろ喜ぶようになった。週二〜三号のペースで一年間で八十三号発行したが、号を重ねるにしたがって保護者からも原稿が寄せられたり、学級通信を使って生徒を動かしたり、行事を仕組んで行ったりもした。資料として、ロングホームルームの中で「セメント樽の中の手紙」の読書会を、生徒の各係を中心に保護者も交えて実施した時の号を載せておく。

読書会シリーズ(4)

保護者から学んだこと

池田 早紀

読書会は思ったより楽しかった。本はセメント樽の中の手紙は2・3回だけしか読んでいなくて、全然本の内容を理解していなかった。そしたら同じ班の友達がおおまかに分かるまで教えてくれた。おかげでよくわかった。こういう雰囲気もていいなと思った。授業では先生が部屋を出し、一人の生徒が考え答えられると、みんなで考えてみんなで意見を出しあってみると、なるほど人の意見になるすかこれるところもあってよかった。

班の発表では、まわりがうるさかったけれど、なんとか聞けた。他の班の考えを聞いて、自分の考えよりもっと良の方とついた考えしあって、ああ、本読みたくさんしたんだなと思わされ、自分の努力のなさにためいき…。

お母さんたちの発表には関心があった。高瀬ダムのこと。多くの朝鮮人の人たちが連れて来られて働かされた。そして仕事場から落ちてもかけない、そのままコンクリートの中へ生き埋め…。今度はこの勉強もしてみたいと思った。

福山 佳奈

初めて読書会としてみて、「セメント樽の中の手紙」の内容がよく考えられてよかったと思う。自分一人で考えたことだけでなく、いろいろな意見とか聞いてより深く考えられた。

保護者の方が、労働者がどういうふうに働かされているのか、細かい所まで調べて来られていたのですごいと思った。

班の中で話し合って内容を発表する所、また話が多かったと思う。

原 聖美

初めて読書会ということとしました。面白の授業とはちがって、班の中での話し合いで考えていって、各班で話し合ったことを話し合っていくということはとてもいいことだと思いました。

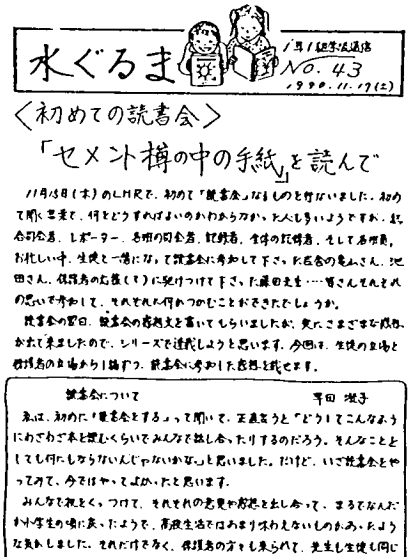
班の話し合いの中では、授業の時とちがって、自分の思ったことをどんどんあらしていけるので、いい意見がたくさん出て来ます。もし話がそれていても意見をあらしてもっとみんなで考えていって、自分がわからなかったこともたくさんとわかって来ます。その結果、とてもいい内容にまとまって行き、いい意見ができあがりました。みんな協力しているので、とてもいい話し合いの形だと思いました。

各班でまとめた意見を発表することも、自分が考えてはいなかったいろいろな意見が出て来て、とても良かったです。

保護者の人の意見では、ダムを作る時に、朝鮮人の人達がたくさん埋められてしまったという話を聞いて、どうしてダムを作ることに朝鮮人を連れて来なければいけないのかと思いました。とてもひどい差別だと思いました。

この読書会でいろんなことを知ることができて、とてもよかったと思いました。

◎ 今回の読書会を実施するにあたり、保護者のお一方に参と強力ませんかというサッピかけに2人のお母さんが快く応じて下さり、大変うれしく思います。本は地域の公害環境活動で読書会グループを作り、活動し、"親子読書"(親子の読み聞かせ)と実践しているのですが、高校生でも親子読書ができないかなぁ、と以前から考えておりました。当日は生徒の方も保護者の方も折り熱心に参加することしなく、本読みをいっしょに音読通りの地でLHRが実施できました。お母さんから出された高瀬ダムの朝鮮人強制労働の話がとても生徒の印象に強く残っているので、この問題もじっくり取り上げて学習したいと思っています。



水ぐるま

1年1組学級通信 No. 43 1990. 11. 17(土)

〈初めての読書会〉

「セメント樽の中の手紙」を読んで

11月15日(木)のLHRで、初めて「読書会」なしものを行ないました。初めて聞く言葉で、何をどうすればよいのかわからなかった人も多いようですが、記録係、司会者、レポーター、各班の司会者、記録者、各班の記録者、そして各班員、おれしい中、生徒と一緒になって読書会に参加して下さった長谷川先生、熊さんと、池田さん、保護者の応援(?)に駆けつけて下さった藤田先生……皆さんもそれぞれの思いで参加して、それぞれ何かつかむことができたでしょうか。

読書会の第1回、読書会の感想文を書いてもらいましたが、実にさまざまな感想、かえて来ましたので、シリーズで連載しようと思います。今回は、生徒の立場と保護者の立場から1篇ずつ、読書会に参加した感想を載せます。

読書会について　　平田 瑞子

私は、初めに「読書会をする」って聞いて、正直言うと「どうしてこんなふうにわざわざ本を読むくらいでみんなで話し合ったりするのだろう。そんなことしても何にもならないんじゃないかな」って思いました。だけど、いざ読書会をやってみて、今ではやってよかったと思います。

みんなで話をくっつけて、それぞれの意見や感想を話し合って、まるでなんだか小学生の頃に戻ったようで、高校生活ではあまり味わえないものかもしれないような気がしました。それだけでなく、保護者の方も来られて、先生も生徒も同じ立場から、一緒になって勉強できたこともよかったと思います。今回の読書会として、班で一体になって協力したり、先生も生徒も同じ目で学習できて、自信水わえないものができたと思います。

だけど反対に、そのことで話がちがったり、自分達のことばかり夢中になっていて、他の班の意見などをちゃんと聞いていなかったので、しっかりと高校生らしい行動をしなければならないのではないかと思いました。

またこういう機会ができるといいです。

読書会に寄かして　　(保護者)　池田 千恵

高校生になると、今度ての子どもの字を見る機会は、とんと減ってしまう。今日の読書会に、いつしの時間心から、いそいそと出掛けて行きました。4人位おいでになると聞いていましたが、見知らぬ方の池田さんと二人きり。途端に緊張なりました。外に出歩く事はとても好きだけど、人の前で話すのは大の苦手。でも、そんな事言ってる内にばかりいるわけにいかず、断りもせずに出掛けてしまいました。

でも、いつも何か収穫があるのです。今日の「セメント樽の中の手紙」は初めての出会いでした。昨晩一通り目は読みましたが、深く考えなくて出掛けたので、藤田先生(保護者の席に参加されておられて下さいました。)の方々や感想、長谷川さんの語彙ゲームのお話などを聞かせていただいたりして、また1つ賢くなったような気がしました。子供達も、まえられた時間一杯、グループで話し合って、それぞれ感想を出し合っていました。緊張感の真剣の行のくくりで、子供達も意思の表い所をつかんでいたと思われる。自分の感想を述べられて楽しかったと思いました。

私は本が好きで、良く読みますが、活字を追うのは新聞だけというのはいく大人になって特に)もったいない気がします。その中に知らないことがたくさんあります。一つでも吸収して肥やしになったらと思って読書をしています。ちなみに、今は机の上に、田辺聖子の「花衣ぬぐやまつわる……くれの恋の羽田人ず」と置いています。

三　終わりに

「文章を書く」ということは、言葉を使って書くという側面と、何を書くのかという側面との二つを持っている。ここで私が報告したことは、主にはスピーチや文集等、書かざるを得ない状況にあって、一体何を書くのかという指導が中心になっている。そして、そこには常に相互批評、あるいは相互批評とまでは行かなくても、友達からの反応があることを前提としている。だから、生徒は価値ある題材選びをせざるを得なくなるのである。この点において、私は、生徒同士の刺激とか影響力というものは大変偉大なものだと思っている。普段の授業の中ではあまり意欲を示さない生徒も、動かざるを得ない中ではそれなりに工夫をして頑張っている。

また、「文章を書く」時には、必ず「自己を見つめる」という作業が必要であり、人の「文章を読む」時には「他人を見つめる」という作業を無意識のうちにしているのである。そうしたことを生徒だけでなく、指導する側もともにして行くことで、より理解し合い、刺激し合うことができる。「卒業文集」原稿用紙八枚以上といえば、私も規定枚数以上書くことを生徒と約束し、そして私の文章にも生徒は評価表を書くのである。こうしたことは随分繁雑なことのように思われるかもしれないが、お互いが「自己を表現する」ことを楽しみ、ともに学んで行くという姿勢はく

ずすまいと思っている。また、生徒との共作体験を持つと、生徒がどんな点で時間をとられたり、何に戸惑っているかがよくわかる。

文章を書かせる上での指導の流れとか、評価表の作り方などは、いろいろと改善して来たし、これからも新たなる工夫や改善をして行くつもりである。まだまだ不十分な点はあるが、曲がりなりにもこれまで実践を積み上げて来られたのは、職場で一緒に実践して来た先生達がおられたからである。お互いにヒントを与え合ったり、生徒作品や学級通信を交換し合ったりして来た。このことはまさしく生徒に相互批評させたことに通じる。生徒達は完成された作品ももちろんであるが、友達からもらった何十枚かの評価表をとても喜んでいた。「自己」をなんらかの形で「表現」し、そのことに対して友達から暖かい励ましや批評の言葉をもらったのである。あるいは「学級通信にあなたの載ってたね」でもよいと思う。書きっ放しで反応がなければ、その生徒は次に書く意欲が無くなってしまうだろう。そういう意味では、私はよき先輩達に恵まれていたことを感謝している。

文章表現力の質的向上という観点から見ると、私の実践にはまだまだ課題が多いのだが、今回は、生徒に書く意欲を起こさせるための「自己表現の場を作る」指導ということで提案させていただいた。

（広島県立三次高等学校教諭）